

陽の里



発行 令和4年4月1日

社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545代
URL <https://www.sun-village.jp/>



No.151

テーマ 新生苑大規模リフォーム



※右下段：名誉理事長・石原美智子、左中段：理事長・今村寧、中央下：名誉常務理事・太田澄子、右中段：専務理事・今村あおい、右上段：常務理事・桑原陽、中央上：常務理事・玉城栄之功、左上段：常務理事・川瀬由紀子、左下段：サンビレッジ国際医療福祉専門学校総学科長・廣瀬武



社会福祉法人 新生会

理事長 今村 寧

新年度を迎えて

数年後、わたしたちはきつと思うのであろう。あの時の大変だったよねと。しかし第6波の真ただ中にいる現在は、少ない情報の中で必死に対抗する知恵を絞りだす私たちがいる。未知なる災害の中で、後から振り返ればきつと無駄になることもたくさんあるのであろう。だからと言って考えることを止めて、活動を単に縮小し、生活に制限をかけ続けることがよいことなのであろうか。

私たちがリハビリをお手伝いする際に、家族から「絶対に転倒させない様にしてください」とよくいわれる。返事は「では、立たないことですね」と返す。リスクを全く負わない選択肢を取ると、最大の利益もなくなってしまう。

新生会もコロナウイルス感染症の脅威を感じているが、じつと手足を縮めてカメの防御体制のままではいけない。今こそ我々が培ってきた知恵を武器に、「コロナ禍でも成長し続ける新生会」となっていく所存である。そのために、サンビレッジ新生苑の大規模改修も行い、これからの時代に沿ったハードとそれに見合うソフトの開発に着手していく。「目が前向きについているのはなぜだとおもう？前へ前へと進むためだ」なぜかふと思いついた言葉である。

新生苑リフォームに寄せて

サンビレッジ新生苑

副施設長 松野 祐樹

社会福祉法人新生会 サンビレッジ新生苑は1976年に開設し、今年度で45周年を迎えました。45年前、新生病院の医師であった初代の理事長が、高齢者がいつでも外出しやすく、地域に暮らしている住人の方がいつでも来やすいよう、揖斐郡池田町の真ん中に特別養護老人ホームを建設しました。サンビレッジ新生苑の入り口には「私たちの使命」が一枚岩の大きな石碑に刻まれています。この使命と共に指針となる「他人の痛みを自分のこととして感ずる感性と、人が等しく生きることの福祉観を基本として」の理念と共に歩んできた45年の節目に、3カ年



計画でサンビレッジ新生苑のリフォームを実施いたしました。

昨年度は、施設全体の外壁塗装及びデイサービス共用ホール（通称ひまわりホール）床の補修、そして初代理事長がご利用者と職員とのQOLへの思い入れから作られた中庭の噴水も蘇りました。新生苑のオレンジの太陽マークと白い壁を背に、水の華のような噴水が夏の暑さを和らげてくれます。

続いて今年度は、内装の改修を行いました。

① 廊下の壁・手摺りの修繕。



① 廊下のアクセント

② 従来型の特養全4床室の改修。

備え付けタンスの撤去を行い、新たな仕切り戸により個室空間を確保。各棟の廊下や居室の壁には、イメージカラーがアクセントを添えています。



② 改修後の居室



③ 共用部のトイレ改修

③ デイサービス・ショートステイの共用トイレの改修 抗菌ライントも採用し清潔感ある空間に。

新生会の理念の基、46年目の新たな1ページをご利用者、職員と共に歩んでいきたいと思えます。

また、令和4年度には今村勲記念館の改修工事を実施していく予定です。当時の措置時代は行政処分によって行き先が決まる中、今村勲記念館は平成5年に「自由契約制特養」として、住まいと介護を利用者本人の自己決定により選択できる施設として建設されました。利用者と法人との契約制である為、選ばれる個別ケアサービスを提供し、利用者・家族とは対等な関係を心掛け、自立と尊厳を目指したサービスを創り上げました。その想いを引き継ぎながら、27年経過した今村勲記念館を新たに30床から20床へと転換し、居住スペースの拡充を行います。医療依存の高い方の受け入れや、専門的な認知症ケアからターミナルケアまで、職員のスキルアップと共に新たな今村勲記念館を創り上げていきます。

「しんせい語録」の読み解き

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。



『当たり前前』のことに

専門性が潜んでいる

サンビレッジ岐阜 リハビリサロン

安藤 理菜

毎朝、利用者さんからの「今日は何があるんやね?」の言葉から一日が始まります。

リハビリサロンでは毎朝、来所してから利用者一人一人に今日は「どうやって過ごすか」をiPadで聞き取りをしています。中には自分で決めることが難しい方もお見えになります。ケアプランの支援内容や本人の強みから合う活動をお勧めし、一緒に決めていきます。毎朝の聞き取りを始めてから二年経過し、このやり取りが毎朝の当たり前前の光景になっています。以前は受け身で提供されることをするだけで「今日は何をやるの?」「やることないの?」の言葉が聞かれました。現在は、自分で一日の活動を選択し、今日の予定が分かることで、「戸田さんの体操はこれからか?」「午後からはボイスト

レーニングやね。今のうちにトイレ行つと」と利用者が自身で予定管理ができるようになりました。私たちが普段当たり前前に行っている、今日は何をしようか? そうかなを利用者主体に変えたことで利用者への自立支援・自己選択・自己決定ができるようになりました。今後継続していくとともに、当たり前前ことに目を向けて専門性を発揮していきたいです。



vol.33

「サンビレッジの仲間たち」

もやいの家市橋 川瀬典子

私は末子が保育園に入園したのを機に、ヘルパー2級を取得し、縁あつてもやいの家藤代（現在のもやいの家市橋）で働く事になりました。子供が小さい頃は、夏休みなどに子連れで出勤させて頂きました。子供たちは、利用者さんとカルタや囲碁・折り紙などを通じて触れ合いながら、お年寄りから様々な知恵や教えなどを頂く事が出来ました。

もやいの家市橋は、自宅から徒歩数分の場所にありますので、地域住民と交流しながら少しでも地域貢献ができればと願っています。

夏休みには小学生との交流会を企画し、子供達と『認知症』についての勉強会や、布草履・味噌作りなどもしました。私の子供も参加させて頂き、その時の作文が6年生の『夏の友』に掲載して頂く事が出来ました。

また、温咲カフェ（認知症カフェ）では、地域住民とお話をする中で、色々な悩みを伺い、情報交換したりして交流をしています。これからも利用者さんや地域の方々、そして自分自身も含め住み慣れた地域で、安心して過ごしたいと思っています。





トピックス

ひろとり



学生さんの国家試験合格祈願!
ご利用者の皆様の思いを乗せて千羽鶴を学生さんのもとへお届けしました。千羽鶴はご利用者の皆様と一緒に作成しました。ご利用者の皆様も自分の孫のように合格を祈って作成いただきました。



User's Voice 「ご利用者の声」



初釜によせて

令和四年の初釜を（年の初めの最初の茶会）と云う事で、職員の皆様にお茶を点でて頂きました。二年ほど前から職員さんには、仕事の合間の時間を利用して割りげいこをやりました。このたびは、お盆でたてるお点前で入所者の皆様方に、「おいしいお茶を差し上げる」と云う事で進めて参りました。職員さん方のたてた一服のお茶で、ホット一息つけるような一刻を過ごして頂きたい、そんな思いからです。「結構ございました、ありがとう」とのお言葉を頂いて、又来年も頑張りましょうネと話した事です。
三尾 富仙



**お家時間を楽しむ
〜手作りパン〜**
皆さんにお好きなパンを聞いて回ったところ「甘いパンがいい」とのこと、あんパン、チョコパンそして玉子パンを作ることにしました。出来上がりをお出したときの「わ〜」という歓声は嬉しかったですね。

みずほ

今日のリビングはお祭り仕様です。賑やかなお囃子を流して屋台に見立てたテーブルで焼きそばを焼きました。焼きそばの焼ける様子が嬉しくて待ちどおしいですね。皆さんで楽しみました。



お家時間を楽しむ 〜焼きそば〜



川柳〜第2弾〜 私自慢・新時代をお題に川柳を募集。投票で入選された皆さんを表彰。



出張料理で笑顔に
食を通じた楽しみと満足を利用者さんの笑顔のお手伝いをしています。

おおがき



げんきクラブ発足
まだまだ現役、人様の役に立ちたい。そんな利用者の声を伺い、げんきクラブを発足しました。



新生苑



季節のデザート
フーススタッフフが季節に合わせてデザートを提供します。2月は節分に合わせて成入りのロールケーキでした。美味しく召し上がる利用者の表情にほっこり。

校舎のない学校



レールカフェのスマホ教室
コロナ禍の中、90歳にして新たに始めたスマホで、ラインデビューをしました。毎月「レールカフェのスマホ教室」で仲間とながり、ライングループで皆さんと近況を報告し楽しく学んでいます。



ホームページもチェック!
各エリア、トピックス、ブログ
毎月更新しております。

<https://www.sun-village.jp/>